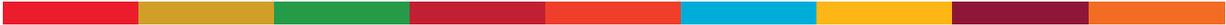


中小企業のための

SDGsと経営

●●●●●●●● 基礎から取組事例まで ●●●●●●●●





INTRODUCTION

昨今、新聞や広告などで「SDGs」という文字を見る機会が増えました。SDGs (エスディー・ジーズ)とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年に国連で採択され、2030年までの達成を目指す17のゴール(目標)のことを指します。

このゴールを達成するために、国や自治体、そして企業などのさまざまな団体が、「何か」に取り組むことで、よりよい社会にしていこうという機運が高まっています。

今では、SDGsに取り組まなければ、「若手の採用が難しい」、「取引先からも求められる」、「消費者からも指摘を受ける」、そんな時代にすでに突入しています。

そして、SDGsの考え方が世の中に浸透すればするほど、こんな質問をよく受けます。それは、「何に取り組めばよいのでしょうか?」です。

SDGsの各ゴールを確認してみると、「地球環境に良い事業をすればよいのか?」「貧困問題に事業として取り組めばよいのか?」というような印象を持たれることも多いと思います。もちろん間違いではないのですが、企業が事業活動をしていく中で、これらのゴールとは直接は関係ない事業を実施している会社の方が多いのが実態であり、多くの企業にとって、SDGsに直接かかわる事業を新しく始めるのは難しいといえます。

とはいえ、これらSDGsの各ゴールと関係ない事業を実施している企業であっても、これからはSDGsを取り入れた経営をしていかなければなりません。そのような中で、「何に取り組めばよいか?」という悩みを持たれるのは、至極当然です。

本冊子は、そのような企業が、これまで実施してきている事業活動(=つまり「本業」)を通じて、SDGsを取り入れた経営をどのように実現していくかについてコンパクトにまとめたものとなります。是非とも、本冊子が皆さまの企業・団体においてSDGsの達成に取り組むきっかけになれば幸いです。

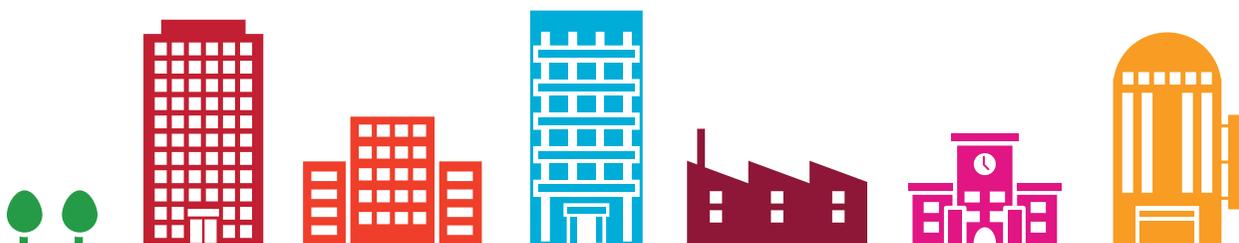
著者



CONTENTS

第 1 章 | SDGsの基礎知識

1	SDGsとはなにか	4
2	なぜ、いまSDGsが必要とされているのか	6
3	SDGsと企業	8
4	SDGsへの取り組み方	10
5	SDGsに取り組む効果	12
6	SDGsによる企業価値向上	14



第2章 取組事例集

1	製造業 / 建設業の取組	16
2	小売業 / 卸売業 / 広告業の取組	18
3	学校法人の取組	20
4	SDGsと人事施策	21
5	人権問題と企業活動	24

第3章 世界・日本・自治体の動きと、これからのSDGs 26

コラム	SDGsと税制改正について	29
-----	---------------	----

おわりに	32
------	----



1

SDGsとはなにか

SDGsとはなにか

SDGsを一言でいえば、「**未来の世界のありかたを示したもの**」ということができます。

SDGsは「**Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)**」の略称です。2015年9月、ニューヨークの国連本部で開催された「**国連持続可能な開発サミット**」で採択されました。

2016年から2030年の間に達成を目指すものとして、国連に加盟する全193か国すべてが賛同した国際目標です。全世界が、2030年にSDGsに描かれた未来を作り出すことを目指しているということになります。

SDGsを構成する17のゴール

SDGsは、**17のゴール(目標)**と**169のターゲット**によって構成されています。

目標は、スローガンやビジョンともいえるような抽象的な表現となっています。一方、**ターゲット**には、**達成を目指す年や数値等、より具体的な到達点が表現**されています。SDGsにはこれ以外の要素はありません。シンプルかつ具体的に表現することで、様々な関係者が共有して目指すことのできる目標としたと考えられます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsの17のゴール



1. 貧困をなくそう
あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



2. 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



3. すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



4. 質の高い教育をみんなに
すべての人々に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



5. ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う



6. 安全な水とトイレを世界中に
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する



8. 働きがいも 経済成長も
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



10. 人や国の不平等をなくそう
国内及び各国家間の不平等を是正する



11. 住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する



12. つくる責任 つかう責任
持続可能な消費生産形態を確保する



13. 気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



14. 海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



15. 陸の豊かさも守ろう
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



16. 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



17. パートナースhipで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

2

なぜ、いまSDGsが必要とされているのか

なぜ、SDGsが作られたか

SDGsは「持続可能な開発のための2030アジェンダ」という文書に記載されています。この「2030アジェンダ」が採択された背景には、世界全体での強い危機感があります。

現在、世界は、**貧困や気候変動、経済格差、資源の枯渇等、様々な問題や課題に直面**しています。しかし、人類全てが一定のレベルを保ち豊かに幸福に暮らすためには、今ある地球の資源では足りず、環境破壊がさらに進むこととなります。一方で、環境の保全を優先するのであれば、先進国の生活レベルを下げるか、途上国が成長を止めなければなりません。経済成長の仕方や環境保全のやり方等、**何かをこれまでのやり方から変えなければ、私たちはこれ以上繁栄を続けることができない**のです。

この先もずっと、この地球上で人類皆が、豊かな生活を維持しながら繁栄していくために、**世界全体で取り組まなければならない「変革」を整理したものがSDGs**です。

\ Keywords /

「ESG」

環境 (Environment) ・社会 (Social) ・ガバナンス (Governance) の頭文字を取った言葉で、もともとは投資の世界で、企業を環境や社会の側面から見るのが重要であるという考えから広まった概念です。SDGsへの関心の高まりとともに注目を集め、投資の面だけでなく、企業価値*に影響を与える経営の基盤としても意識する経営者が増えています。

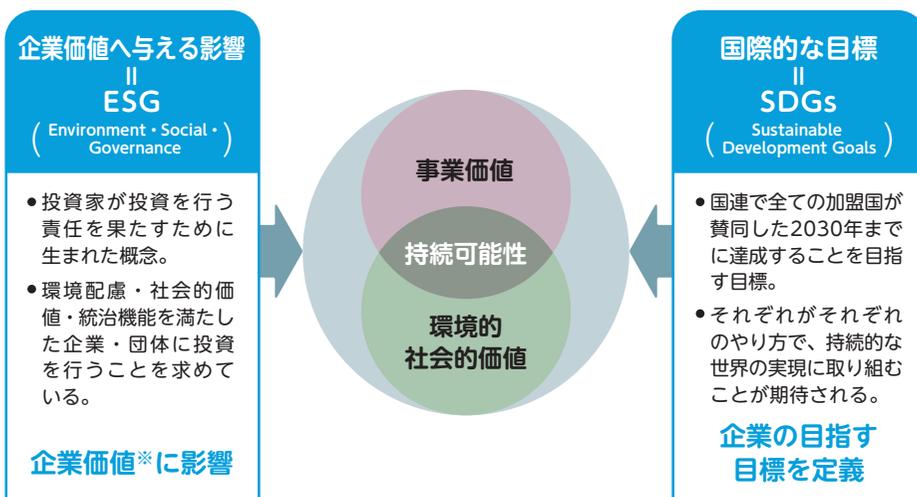
これまでと何が違うのか

SDGsは、**すべての国連加盟国が賛同している**という点が重要といえます。これまでも類似する国際目標が作られたことがあります。発展途上国特有の課題が多く、全世界を巻き込んだものとはなりません。

SDGsはあらゆる国が、**政治的な対立や地理的な関係性を超えて、将来の世界のありかたを決定**しました。国によって取り組み方や重視するものは違ったとしても、共通のゴール、「ありたい姿」をもったことで、実現可能性が高くなったといわれています。

「未来のありかた」はSDGsに描かれています。企業として、そこに描かれている機会や課題に先んじて対応することができれば、大きなチャンスをつかむことができるでしょう。

■ 持続可能な開発のための経済的成長と環境的・社会的価値の相関イメージ



※なお、一般的に「企業価値」とは企業の財務面と非財務面の両方を含んだ価値を指しますが、本冊子では、「非財務面の価値」という意味で用いています。

3

SDGsと企業

企業が主役となる目標

企業にとって、SDGsに取り組む意味合いはどこにあるのでしょうか。

SDGsには、**目標8「働きがいも経済成長も」**や**目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」**といった**企業活動に関わる目標**が設けられています。

従来の持続可能性といえば、環境保護や社会課題が強調され、その対応のために経済的負担をしなければならない、という論調が多くありました。しかしSDGsにおいては、**環境や社会の持続可能性と同じくらい、経済の持続可能性も重要**だと考えられています。

なぜ企業がSDGsに取り組む必要があるか

従来、企業の利益と社会の利益は必ずしも一致しないと考えられてきました。環境保護や社会問題に対応に真剣に取り組むほど、追加的なコストが必要となります。

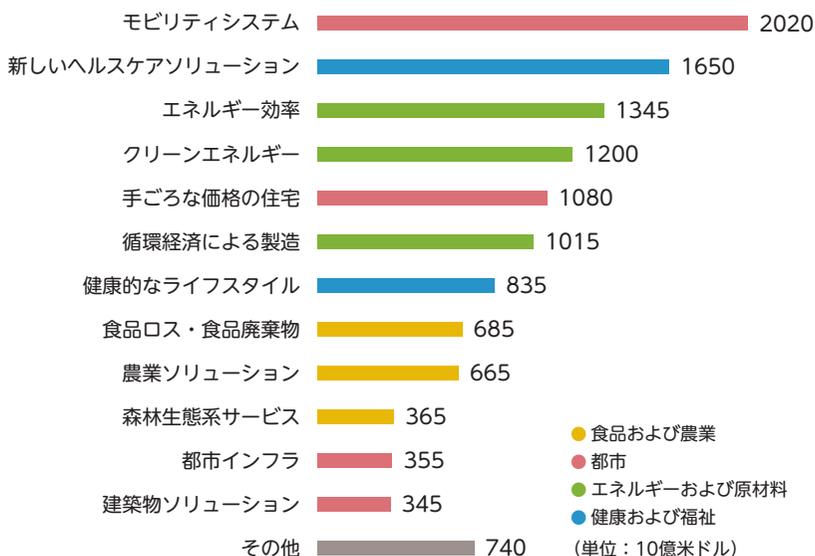
しかし、近年では、「**工場が災害で被害を受ける**」「**社会的批判により企業活動停止を余儀なくされる**」といった**事例**が増えています。これまで企業の外側にあった環境的・社会的問題が企業活動に大きな影響を及ぼすようになり、**環境的・社会的問題の対応が、企業活動にとって不可欠**と考えられるようになりました。

SDGsによるビジネスチャンス

一方で、SDGsは**未来のビジネスチャンスを見極める指針**ともなります。

SDGsには世界全体が合意した「未来のありかた」が描かれています。「未来」と「現在」のギャップとはすなわち、世界全体が解決したいと願うニーズと考えることもできます。**自社の強みを活かして、SDGsが示すニーズの解決を図ることが、企業にとって新しいビジネスチャンス**となります。

2030年における市場機会



(出典：Business & Sustainable Development Commission (ビジネスと持続可能な開発委員会))

4

SDGsへの取り組み方

SDGコンパス

企業がSDGsへ取り組むためのガイダンスとして、2016年3月に国連グローバル・コンパクト等が作成した「SDGコンパス（SDGsの企業行動指針）」が公開されています。

SDGコンパスは、5つのステップにより構成されています。



SDGsを理解する

SDGsの内容や目的に対する理解を進めるとともに、SDGsの達成に取り組むことが、市場開拓・ブランド力の強化・法的リスクの軽減などにつながることを確認します。



優先課題を決定する

SDGsのすべてのゴールに対して取組を行う必要はありません。自社の事業活動とSDGsとの関わりを分析し、自社にとって重要なゴールを明らかにします。



目標を設定する

重要なゴールに対して、「正の貢献の強化」や「負の影響の抑制」といった観点で目標を設定していきます。例えば、消費者がエネルギー消費を削減できる製品を開発することは、ゴール13への正の貢献の強化と言え、水資源が不足している地域で製品製造時の水の使用量を削減することは、ゴール6への負の影響の抑制と言えます。目標は数値的な指標（KPI）を伴うことでより実効性を高めることができます。